

茅野市DX基本計画

－ 茅野市におけるDXのすすめ方 －



2024年 月

CONTENTS

策定にあたって …

第1章 茅野市におけるDXとは …

第2章 DXで目指す社会・大切にすること …

第3章 推進体制(誰が進めるのか) …

第4章 茅野市のDXを安全に進める4つの柱 …

第1項 原則とルール …

第2項 意見の反映・参加の促進 …

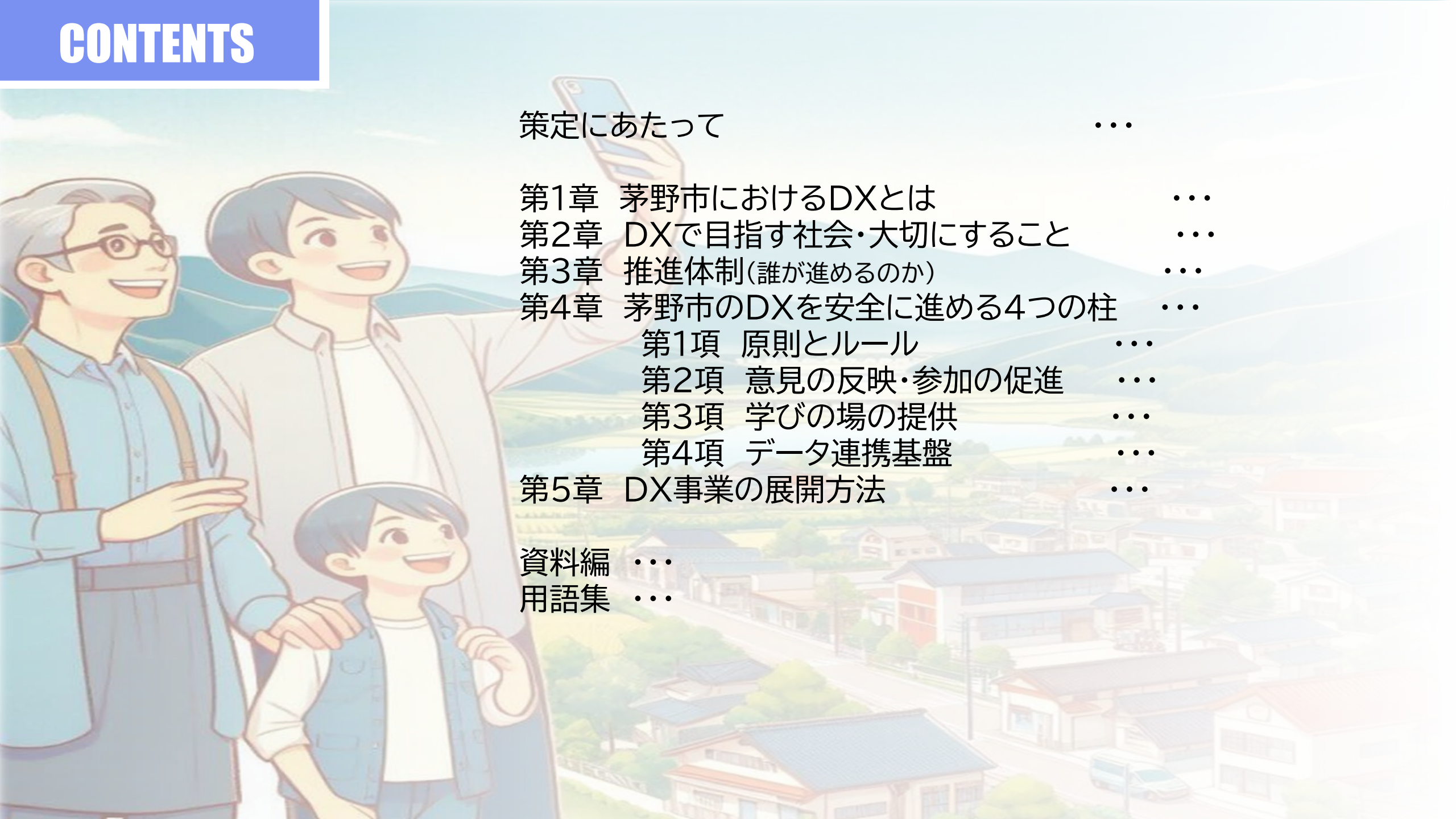
第3項 学びの場の提供 …

第4項 データ連携基盤 …

第5章 DX事業の展開方法 …

資料編 …

用語集 …



策定にあたって

外部評価委員会 コメント

推進協議会 コメント

市長コメント



第1章

茅野市におけるDXとは



茅野市DX基本構想で定めたこと

- ・茅野市がまちづくりにおいて大切にしてきた想いである「市民一人ひとりが心豊かで健やかに、快適な生活を送ることができるまちであり続ける」ことの実現に向けて「DX」に取り組むことにしました。
- ・デジタル技術やデータ活用における市民の安全性と利便性の向上を図るために4つの柱(基盤)を定めました。
- ・本計画は、このDX基本構想に基づき「茅野市のDX」の進め方を具体化するものです。

基本方針(市民の想い)と基本理念

想い
**市民一人ひとりが心豊かで健やかに、
快適な生活を送ることができるまちであり続けたい**

基本方針

“未来型ゆい”による つながりの拡大

デジタル技術やデータの活用により、「住む人」「訪れる人」「関わる人」の力をつなげ、“まち”の力にする“未来型ゆい”を構築することで、“人”の力、“まち”の力の向上を図ります。

“人”の力・“まち”の力の向上

市民中心のサービス提供

デジタル技術やデータの活用により、一人ひとりの市民のニーズに合わせた、きめ細かなコミュニケーションやサービスの提供により、様々な地域課題の解決と新たな価値の創造を図ります。

個と多様性の尊重

基本理念

未来型ゆいの構築により多様な市民が活躍できる

**たくましく やさしい しなやかな
交流拠点CHINO**の実現

安全性と利便性を図るための4つの柱

ルールづくり



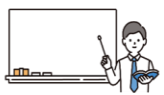
市民が安心して“DX”の取組に参加できるよう、国や国際的な団体が提唱するルールを参考に、人権に最大限配慮した茅野市のルールを策定します。

意見の反映・参加の促進



市民の不安を解消し、安心して“DX”の取組に参加いただけるよう、目的の共有や意見交換の場の提供や“DX”の取組を評価し、いただいた意見を改善につなげる仕組みを作ります。

学びの場の提供



デジタル技術やデータの活用に対して、希望する全ての市民が必要とする知識や技術を身につけられる、様々な学びの場を提供します。

データ連携



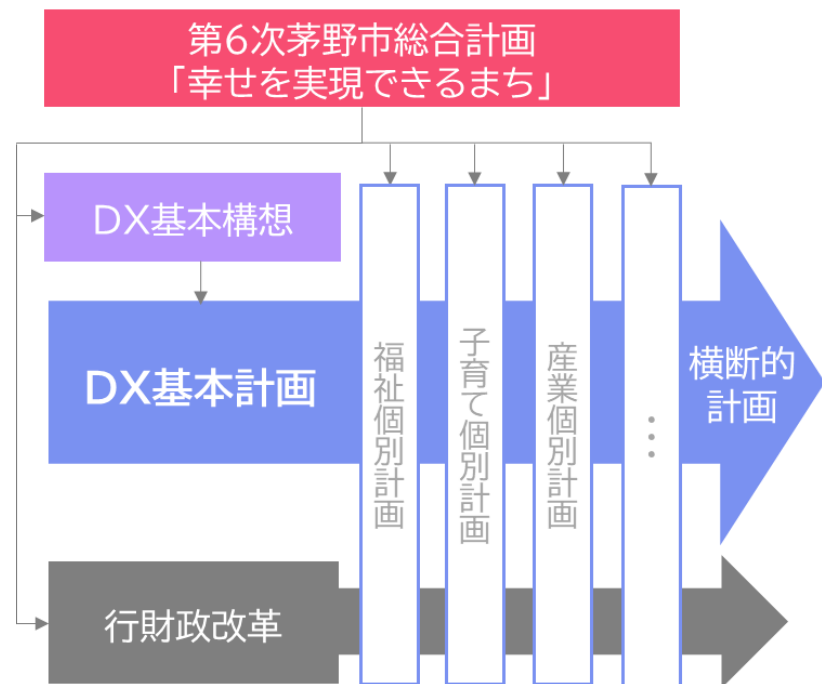
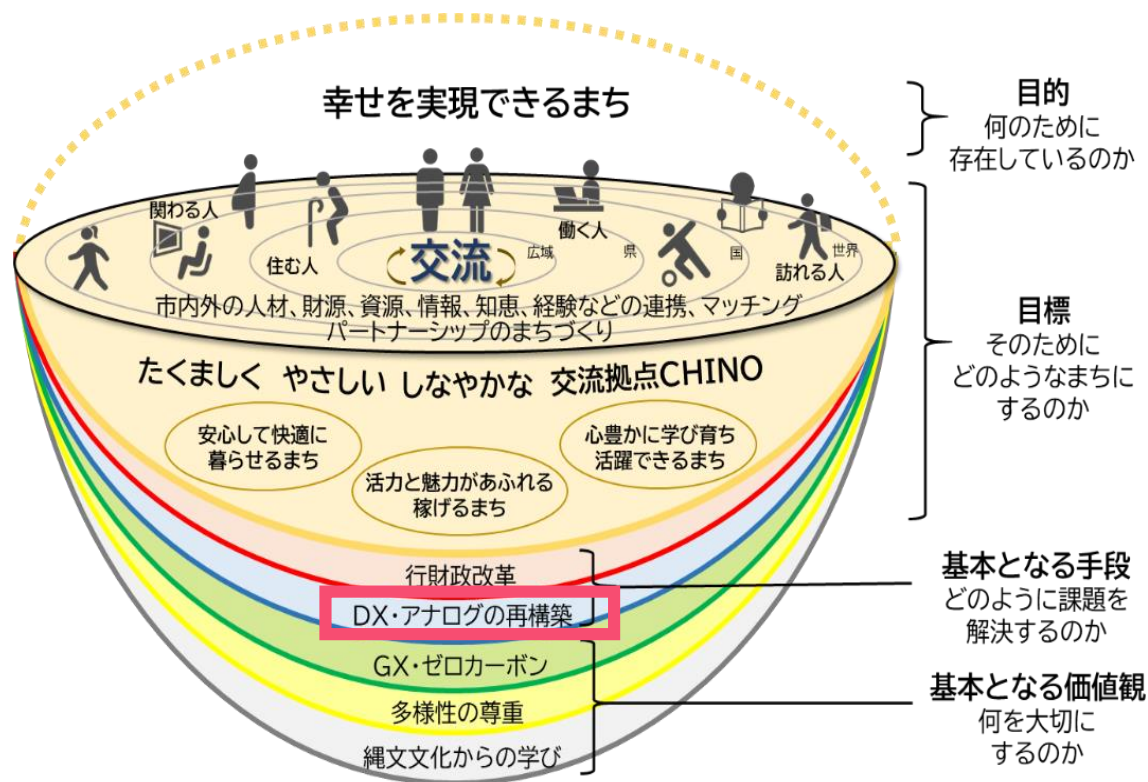
市民が自らのデータを必要ときに、正しく素早く利用できるように、また、市民自らがいつでもそのデータを確認し、コントロールできるようにオープンで安全なデータ連携基盤を整備します。

各項目の具体的な内容や進め方は、DX基本計画において明記します。



第6次茅野市総合計画における「DX」の位置づけ

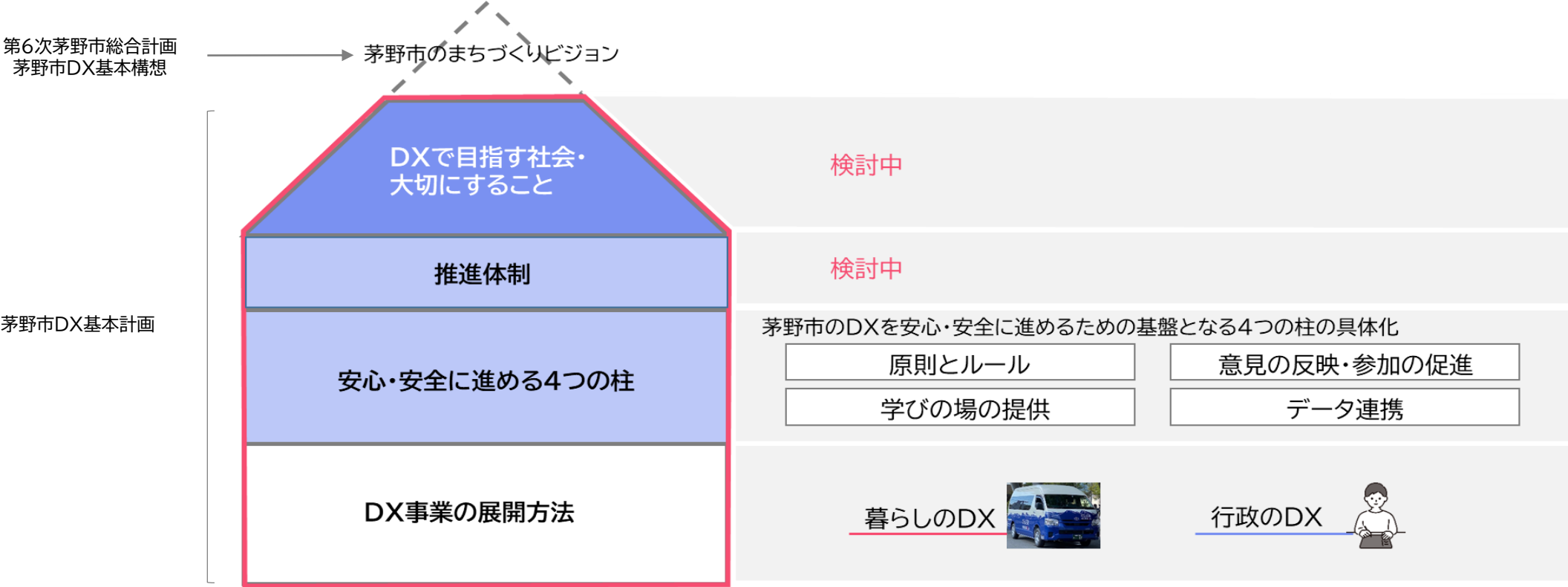
- ・ 第6次茅野市総合計画では、「幸せを実現できるまち」の“まちづくりの基本となる手段”として行財政改革と並んで、「DX・アナログの再構築」を導入することとしました。
- ・ DX基本計画は、第6次茅野市総合計画を構成する各分野別計画においてDX事業を推進する際の基本となる横断的な計画です。





茅野市DX基本計画で定めること

本計画は、DX基本構想に基づき「茅野市のDX」の進め方を具体化するものであるとともに、各分野別計画におけるDX事業の推進にあたっての基本となる横断的な計画です。

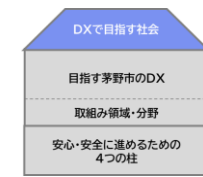


(※)暮らしのDXの例 LX 経団連、暮らしのためのDX



第 2 章

DXで目指す社会・大切にすること



DXで目指す社会

これからの心豊かで快適な市民生活の実現に向けてDXをその手段として取り入れていくためには、私たちみんなでDXを活用する“くらし”と“まち”の姿を共有する必要があります。

DXで目指す“くらし”と“まち”の姿

- 1 限られた資源(人、財源、情報など)を有効活用しながら、まちづくりのシステムを変えることによって生まれる「ゆとり」ある“くらし”

これまでの当たり前を見つめ直し、人がやるべきことの見直しやデジタルへの置き換えによって、市民が生活に「ゆとり」を生み出すことができる社会を目指します。

- 2 「全体最適」な“まち”

個別の課題解決が新たに誰かの困難を生むことなく、社会全体の幸せが向上するようなDXを検討し、実行できる社会を目指します。



DXをより良く活用するために

DXやデジタル化は、その活用方法を間違えると“暮らし”や“まち”に悪影響を与える可能性があります。

好ましくない活用方法

市民生活において

- ・ 煩雑で使いづらい、サービス間の互換性が無い
- ・ 類似したサービスが多く、どれが良いかわからない
- ・ デジタル技術の活用が先行し、市民の声が置き去り
- ・ ずさんなセキュリティによる情報漏洩の被害

事業者において

- ・ 一部の人のみが恩恵を受けられるデジタル技術の投入
- ・ デジタル技術の投入により仕事が複雑かつ煩雑になる
- ・ 情報漏洩等による企業利益の損失

行政運営において

- ・ 縦割りの投入(部分最適の追求)、不活用
- ・ デジタルの導入ありきの施策による財政の圧迫
- ・ 行政が主導するだけでは限界(広がらない)

➡ まちの疲弊や衰退を招く

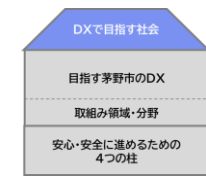


わたしたちの進め方

- ・ 市民のために真に必要なDXを考え、カタチにする
- ・ 皆でDXを考える
- ・ 進み具合が分かる
安全性が確認できる

こうならない
ために

茅野市のDXを進めるうえで大切にすること



- ・わたしたちがDXを進めるうえで、大切にすることを以下のとおり整理しました。
- ・この3点を“3つのあいことば”としてみなさんとともに取り組んでまいります。

3つの“あいことば”

① ヒューマンファースト ▶ 人のしあわせを目指します

- ・市民生活の課題を起点としたDXを進めます。
- ・デジタルの得手不得手に関わらず、誰もが最大限に恩恵が受けられるDXを目指します。

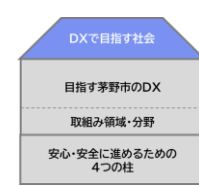
② 共 創 ▶ 市民と共同して創ります

- ・DXの導入可否から運用の評価まで、随時市民の声と力を取り入れていきます。
- ・DXに関わる全ての人(団体、大学、事業者)が、それぞれの専門性を生かしながら共に助け合って創り上げます。

③ 透明性の確保 ▶ 安心と安全を守ります

- ・DX導入の目的と経過、運用上の評価の透明性を確保します。
- ・データとセキュリティの安全性を確保します(自分のデータの取り扱い状況が確認できるなど)。





3つの“あいことば”

3つの“あいことば”が示す具体的な内容は以下のとおりです。

1 ヒューマンファースト

▶ 人のしあわせを目指します

・ 市民生活の課題を起点としたDXを進めます。

①デジタルの導入を優先するDXは行いません。
“人のしあわせ”のために必要なDXを進めます。

②市民生活における「暮らし・仕事・遊び」に配慮したDXを進めます。

③事業者はサービス提供者である反面、市民でもあることを考慮したDXを進めます。

・ デジタルの得手不得手に関わらず、誰もが最大限に恩恵が受けられるDXを目指します。

デジタルが苦手な人でも、デジタル技術を使えない人でも、平等にデジタルの恩恵を受けることが出来るDXを検討します。

NOT!
デジタルファースト



2 共 創

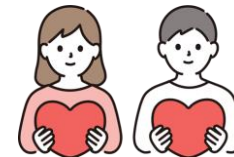
▶ 市民と共同して創ります

・ DXの導入可否から運用の評価まで、随時市民の声と力を取り入れていきます。

1人ひとりがそれぞれの立場や視点、知見をもとに役割を持ってDXに関わることで、地域一体となった推進を目指します。

・ DXに関わる全ての人(団体、大学、事業者)が、それぞれの専門性を生かしながら共に助け合って創り上げます。

地域外の新たな力をも取り入れながら、より便利で利便性の高いサービス提供を目指します。



3 透明性の確保

▶ 安心と安全を守ります

・ DX導入の目的と経過、運用上の評価の透明性を確保します。

課題の把握から課題解決手法の検討、事業化までの経過や進捗、議論の内容などをいつでも、だれでも確認ができるように公開します。

(公開方法の例)

・茅野市どっとネット、茅野市公式HP など

・ データとセキュリティの安全性を確保します(自分のデータの取り扱い状況が確認できるなど)。

①個人情報など機微なデータを扱うデジタルサービス等の導入検討にあたっては、サービスに対するセキュリティ評価を実施し、安全性の確認を行います。

②サービスの設計段階からサービスイン後も都度セキュリティ評価の内容をフィードバックし、適切なデータ管理がされていることを確認します。

③評価内容を公表し、安全性を担保します。

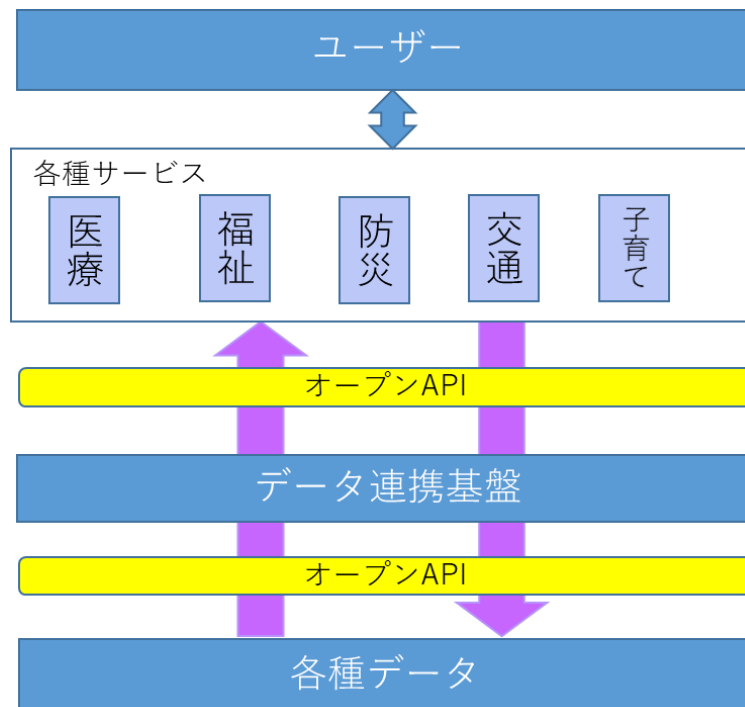
未定稿



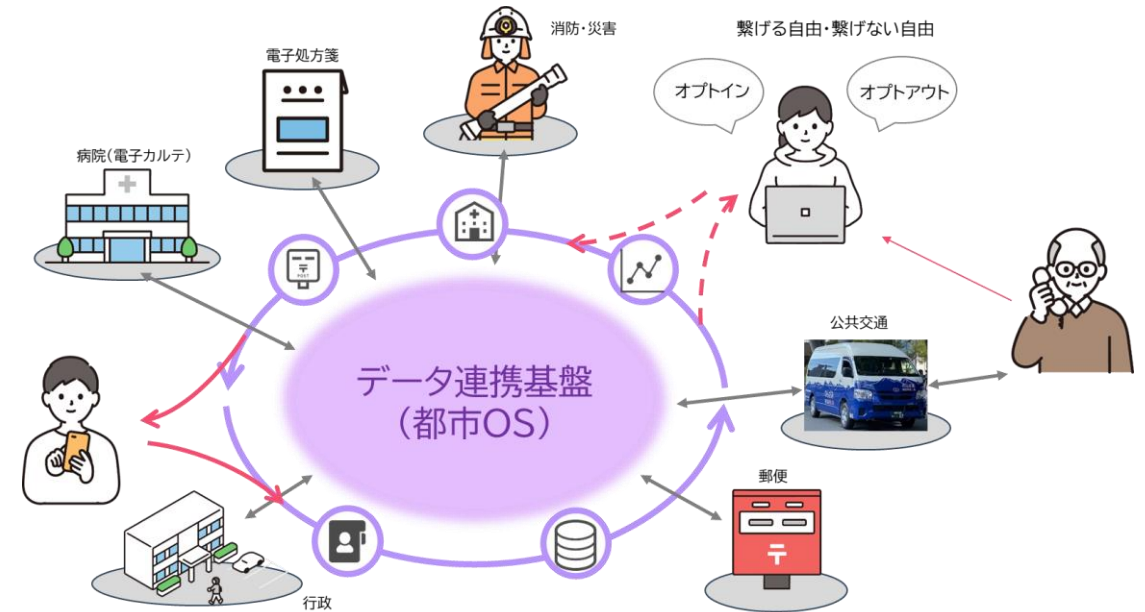
情報が繋がる仕組みの活用(目指す社会の基盤)

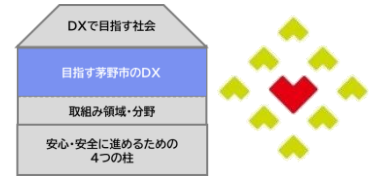
- ・ 情報が繋がる仕組みとして、「データ連携基盤(都市OS)」が活用できる環境を整備していきます。
- ・ 市内外に存在する情報やサービスが連携して寄り添うことにより市民生活の充実を目指します。
- ・ 都市OSの将来的な自走を目指します(運用方法、マネタイズなどを検討)。

未定稿



内閣府 デジタル田園都市国家構想より





アナログの再構築(全体最適を生み出すために)

- ・ “暮らし”や“まち”のDX化は、ヒューマンファーストの視点で進めます。
- ・ DX化を進める場合には、その前提として、これまでの暮らしや仕事の“当たり前”を見つめ直し、社会の変化に合わせた最適な方法を検討していくことが大切です。これを「**アナログの再構築**」と定義します。

未定稿

目指す茅野市のDX①

アナログの再構築とは

- ・ 守りたいこと(人の手でなければならないこと、人の手の温かみを伝えたいこと)を守り、変えるべきこと(ムダ、非効率など)をデジタル技術等に置き換えること。
- ・ デジタルツールを活用して、これまでまちづくりに参画することができなかった人の意欲や力を、まちの力に取り込むなどして、これまでの手順を見直すこと。

※DX化しないアナログの再構築もある。

※デジタル技術等

- ・ パソコン、タブレット、スマートフォン等のデジタルツール
- ・ アプリ等が保有する個人情報等のデータ
- ・ AI、メタバース等の先端技術 などの総称

アナログの再構築のポイント

1 人(自分)がやるべきことなのか

「今やっていることは、”人(私)”がやるべきことなのか？」
デジタルの活用による効率化や、やり方を見直す、やめる選択肢を考えます。

YES or NO



これって私がやること？

2 それぞれの立場から考える

DXに関わる人がそれぞれの立場や知見を活かして最適な解決手法を考えます。



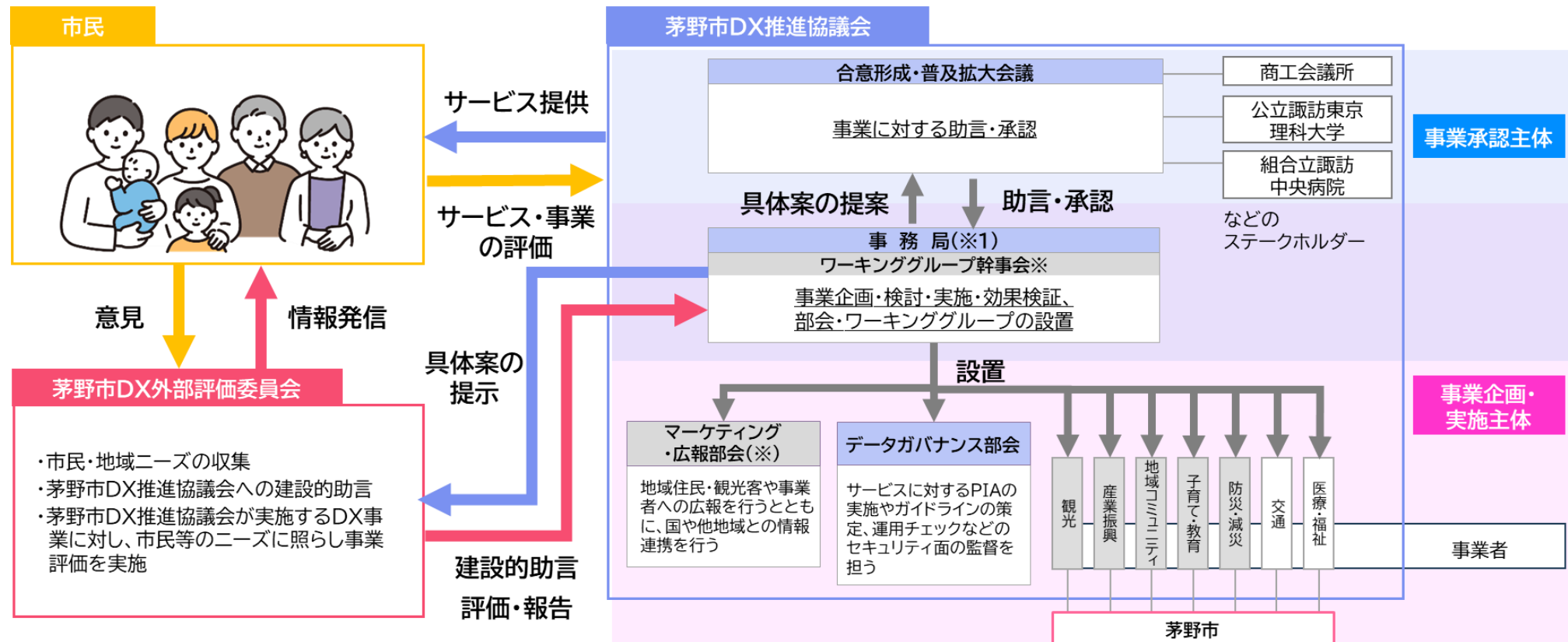
第 3 章

推進体制(誰が進めるのか)



推進体制

- ・ 地域が一体となってDXを進めていくために、推進役と市民の連携により進めます。
- ・ 推進主体として、「茅野市DX推進協議会」を設置します。
- ・ 市民の窓口として、市民の声を集約し、運営に反映させる「茅野市DX外部評価委員会」を設置します。



※ 灰色の組織は順次設置

※1 体制が整うまでの間は、茅野市が事務局を担う



DXの展開に関わる各団体等の役割

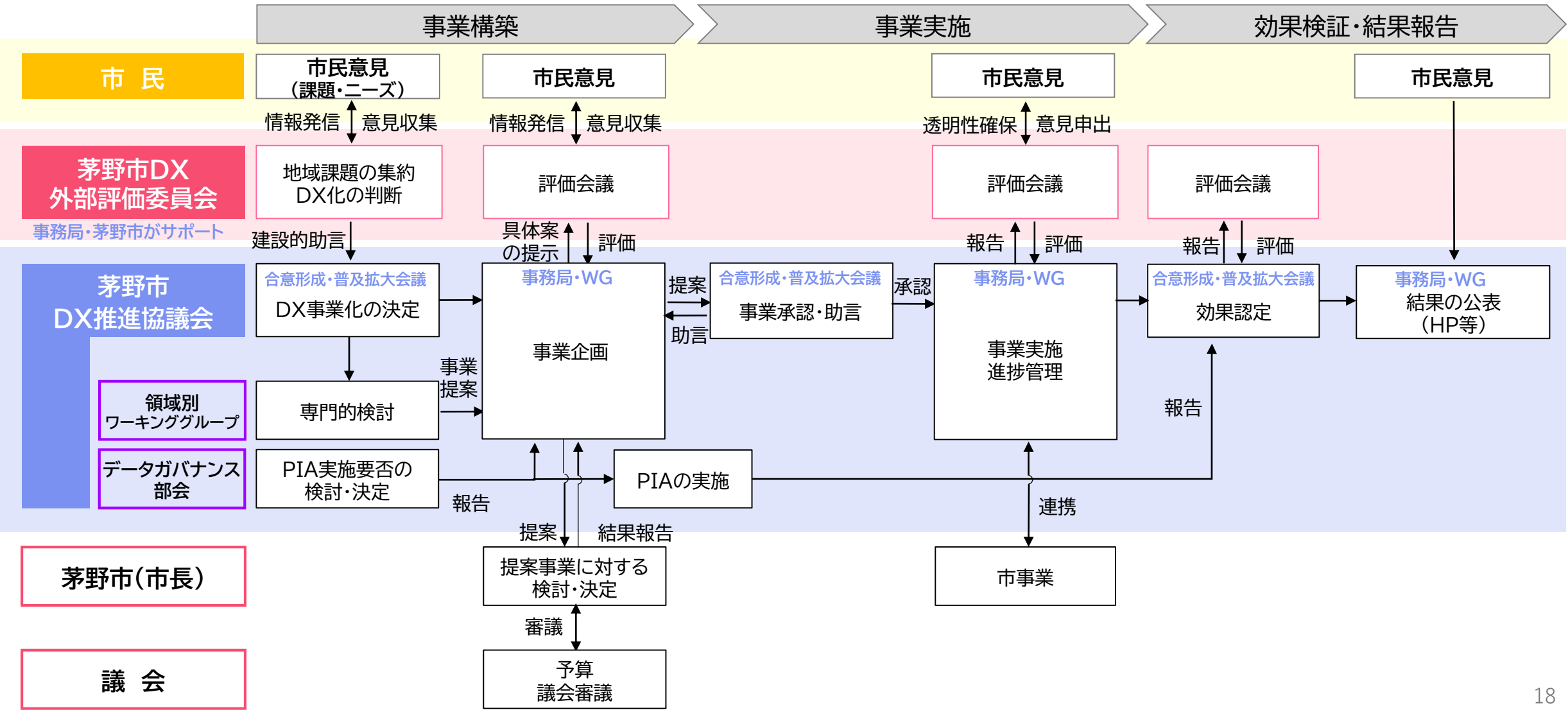
DXの展開(以下、「事業」という。)にあたっては、それぞれの主体が役割を担いながら一体となって進めます。

		役 割	構成員等
市 民		・暮らしの課題感の発信 ・サービス、事業に対する評価 ・デジタルへの正しい理解と積極的な活用	・茅野市民 ・観光客 ・別荘居住者 ・テレワーカー ・市外からの通学、通勤者など
茅野市DX推進協議会	合意形成・普及拡大会議	・DX事業化の決定 ・事業承認・助言 ・効果認定	・地域団体代表者・・・公立諏訪東京理科大学、諏訪郡医師会、茅野商工会議所、諏訪中央病院、茅野市社会福祉協議会、茅野市金融団
	事務局	・DX外部評価委員会との連携 ・事業企画、進捗管理、都市OSの運用 ・部会、ワーキンググループ(WG)の設置	・各ワーキンググループ代表者・・・民間事業者等 ・アーキテクト・・・DX推進機関の首長的存在 ・アドバイザー ・市担当者
	部会・WG	・事業の専門的検討 ・事業実施 ・PIAの実施(データガバナンス部会) ・関係機関等との情報連携、広報(マーケティング・広報部会)	・民間事業者等(事務局が推薦する者) ・茅野市民 ・市担当部課局 など
茅野市DX外部評価委員会		・市民への情報発信 ・市民ニーズ、地域課題の集約 ・DX推進協議会への建設的助言 ・サービス、事業に対する評価 ・DX化の判断	・茅野市における審議会、委員会の委員 ・市民代表者 ・有識者
事業者		・WGへの参画(事業化の提案) ・安全なサービスの提供 ・事業者間の連携	・市内外企業等
茅野市(市長)		・DX推進協議会、DX外部評価委員会との連携 ・関係部局間の連携促進 ・議会への説明	・関係部課局



事業推進の流れ

課題の収集・課題解決手段の検討から結果報告までを以下の流れをもとにそれぞれの役割により進めます。





第 4 章

茅野市のDXを安全に進める4つの柱



第 5 章

DX事業の展開方法

令和7年度から3年間の進め方